

平成 30 年度学校評価結果報告書
(中間評価)

広島県立呉特別支援学校
(江能分級)

平成 30 年度自己評価シート（中間評価）

校番	112	学校名	広島県立呉特別支援学校	校長氏名	東内 桂子	全日制	江能分級
----	-----	-----	-------------	------	-------	-----	------

1 学校経営目標							
	達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等		
1 特別支援教育を通じて地域に貢献する学校，地域から信頼される学校							
	呉特別支援学校江能分級の「学びの革新」に係る情報発信	一人一回研究授業や研修に関する計画に基づいて実施し，成果をまとめ，ホームページに掲載する。	A	計画どおり実施し，成果をまとめ，速やかにホームページに掲載した。	研究部		
	地域清掃活動の実施	地域清掃を実施するとともに，地域のニーズを把握する。	A	計画どおり 6 月から毎月，地域の公共施設の清掃を行っている。	高等部		
	地域から信頼される学校づくりの推進	運動会，文化祭，公開講演会，公開授業研究会にて，外部参加者を対象にアンケートを実施し，満足度を集約する。	A	運動会及び公開講演会において「満足，やや満足」の評価が全体の 95%以上であった。	教務部		

【評価結果の分析】

●呉特別支援学校江能分級の「学びの革新」に係る情報発信

児童生徒が自ら考え，主体的に活動し，判断して行動できる力を付ける授業づくりのため，研究授業を計画し，計画どおり 10 人中 6 人実施できた。研究を深めるための協議会では，常に 3 つの観点（知識・技能，思考力・判断力・表現力，主体的に取り組む態度）から授業を評価し，改善を重ねるために整理し，まとめとした。

「研究授業のまとめ」は，速やかにホームページに掲載した。

●地域清掃活動の実施

新学習指導要領で示される「社会に開かれた教育課程」を具現化した教育活動の一つとして，能美市民センターでの清掃活動を計画どおり実施している。学校の学びを実際のな場所で行い，成果や課題を得ることができた。指示されたことをするだけでなく，自分で考えて清掃場所の分担をするようになるなど，生徒の変容が見られた。また，予定していた活動に加えて，花の植樹や除草作業の依頼を受けるなど，般化・応用を試される場面があった。

学校周辺の清掃活動も実施し，地域の方から感謝される体験をすることができた。

●地域から信頼される学校づくりの推進

「地域に開かれた学校」として，学校行事等で地域の方々に参加いただいている。評価のために，アンケートで満足度を調査している。すべての活動で，95%以上の満足度が得られている。地域や保護者のニーズに応えることができていると分析している。

【今後の改善方策】

●呉特別支援学校江能分級の「学びの革新」に係る情報発信

研究協議の精度を向上させるために，教職員の参観機会を増やしていく。協議に参加できない者には，事前に授業評価シートの提出を求めるなどの参加の工夫をする。また，ホームページへの掲載も継続する。

●地域清掃活動の実施

地域のニーズに応える活動を計画するため，教職員が地域住民から聞き取りを行うなどニーズを把握する。そして，学校の中だけで完結しない教育活動を計画していく。

●地域から信頼される学校づくりの推進

アンケートの中の意見を受けて，行事等の趣旨を踏まえて，より質の高い内容を創っていく。

2 障害のある児童生徒の自立と社会参加を実現する学校							
	主体的な活動を目指した授業づくり	資質・能力を意識した単元目標の設定や指導略案の作成方法について共通理解を図り，授業実践に取り組む。	B	研究授業の自己評価・他者評価の 4 段階で 3 以上が全体の約 70%である。	研究部		
	児童生徒の体力・運動能力を高める教育活動	持久走に係る記録を計測し，記録の平均値を目標記録として設定する。平均値を出すまでの計測回数を定める。	C	体力づくりで持久走に取り組み，記録を計測した。今後は，目標設定をして取組を継続していく。	全学部		

児童生徒の能力や可能性を最大限に伸ばす教育活動	各種コンクールの案内を周知し、参加を呼び掛ける。個々の児童生徒の豊かな感性を引き出す授業づくりを行う。	C	小・中学部では、絵画コンクールに参加した。高等部では、コンクールに参加できなかった。	全学部
業務改善に係る取組	業務改善の考え方や目的を整理し、教材研究の時間確保や、業務の効率化を図る。	B	ペーパーレスや時間短縮に関する業務改善を2件実施した。	教務部

【評価結果の分析】

●主体的な活動を目指した授業づくり

学部ごとに育てたい資質・能力を設定し、それを踏まえた学習指導案や指導略案の作成を徹底し、授業を実践した。研究授業においては、「目標の達成度」「目標設定は適切だったか」「手立ては適切だったか」「自ら考え、行動できたか」の4項目において評価を行い、4段階の内3以上が7割だった。

指導略案においては、「学習評価」「目標設定」「手立て」の3つの観点から評価を行い、手立てが複雑であることや教材研究が不足しているという課題が挙げられた。

●児童生徒の体力・運動能力を高める教育活動

小学部では、ウォーキングからはじめ、徐々に走る距離を伸ばしていった。中学部では、前時に計測した時間をもとに、目標時間や目標周数を決めて取り組んだ。高等部では、毎回ラップタイムを算出し、1週のペースを考えながら、走るようにした。

●児童生徒の能力や可能性を最大限に伸ばす教育活動

小・中学部では、コンクールに出品することを伝え、描くことへの意欲を図った。「造形あそび」等の中に道徳教材を用いて周りの人の気持ちや社会のルールを感じられるような授業づくりをした。見えやすい場所に各種コンクールの案内を提示して、意欲の喚起をした。「あいサポート展」に出品した。高等部では、コンクールの時期と合わせていなかったため、出品できていない。

●業務改善に係る取組

職員朝会の記録をデジタル化したことにより、連絡・周知事項を各パソコン上で確認できるようになった。また、司会が行っていた記録を、担当者がデータ入力することで、業務を省略することができた。職員室に保護者へ配付したプリントを入れるケースを設置することで、探す時間が短縮することができた。

【今後の改善方策】

●主体的な活動を目指した授業づくり

目標設定をする際には、一人一人の児童生徒の段階を踏まえて設定するようにする。手立てを整理して、教材をシンプルなものにする。教材研究については、教材のデータを共有し、一人一人の実態に合わせて変更して使うことで、質の高い教材をつくることができるようにする。

●児童生徒の体力・運動能力を高める教育活動

学部ごとに取り組んでいたため、今後、方法を統一したり、学部間を調整したりする教職員を定める。

効果的な支援として、走ったタイムをグラフ化して視覚的に目標が分かるようにしていく。

●児童生徒の能力や可能性を最大限に伸ばす教育活動

小・中・高等部では、今後開催される「ことばの輝き優秀作品コンクール」「広島市ピースアートプログラムアート・ルネッサンス」に参加することを動機付けに活用し、感性を引き出す指導・支援を行うよう教材研究をしたり、情報共有したりする。他の児童生徒の活動を知らせて意欲の向上を図るなど、やりたくなるような仕掛けづくりをしていく。また、各種コンクールの時期を年間指導計画の調整を検討する。

●業務改善に係る取組

広島県教育委員会作成リーフレット「challenge!!業務改善」を参考にして、業務改善の内容を引き続き創っていく。校務運営会議において、分掌業務の進捗管理に係る改善案を検討する。

平成30年度自己評価シート（中間評価まとめ）

校番	112	学校名	広島県立呉特別支援学校	校長氏名	東内 桂子	全日制	江能分級
----	-----	-----	-------------	------	-------	-----	------

1 評価結果の分析

(1) 特別支援教育を通じて地域に貢献する学校，地域から信頼される学校

「学びの変革」に係る研究授業を計画的に実施した。成果をホームページに掲載することで情報発信し，特別支援教育のセンターとしての役割を果たしている。

学校で学んだ知識や技能を地域で発揮し，地域に貢献する活動として，能美市民センターでの清掃活動を計画どおり実施した。清掃活動以外にも花の植樹や除草作業をとおして地域に貢献するきっかけをつかんでいる。

運動会等の行事に対する外部からの評価（満足度）については，90%を超えており，地域や保護者のニーズに応えることができていると考えられる。

(2) 障害のある児童生徒の自立と社会参加を実現する学校

授業づくりでは，研究授業で4観点，通常の授業の指導略案で3観点を設けて，評価を行った。目標設定や一人一人に応じた教材づくりについて，課題が挙げられた。

距離を決めて徐々に距離を伸ばす，前回の記録をもとに今回の目標を設定するなど取組方法が学部によって異なっていた。そのため，平均値から目標記録を定めることは実施できていない。

「あいサポート展」に出品することを伝え，描くことへの意欲を図った。「造形あそび」等の中に道徳教材を用いて周りの人の気持ちや社会のルールを感じられるような授業づくりに努めた。見えやすい場所に各種コンクールの案内を提示して，意欲の喚起をした。コンクールの時期と学習時期にズレがあるものもあった。

職員朝会の記録をデジタル化したことにより，連絡・周知事項を各パソコン上で確認できるようになった。また，司会が行っていた記録を，担当者がデータ入力することで，業務を省略することができた。職員室に保護者へ配付したプリントを入れるケースを設置することで，探す時間が短縮することができた。

2 今後の改善方策

(1) 特別支援教育を通じて地域に貢献する学校，地域から信頼される学校

「学びの変革」に係る授業については，継続して情報発信していくとともに，「学びの変革」がすべての授業で展開できているようにしていく必要がある。

地域のニーズを把握したり，掘り起こしたりするために，地区住民から聞き取りや行事ごとのアンケートの分析を行っていく。

(2) 障害のある児童生徒の自立と社会参加を実現する学校

目標設定をする際には，一人一人の児童生徒の段階を踏まえて設定するようにする。教材研究については，教材のデータを共有し，一人一人の実態に合わせて変更して使うことで，質の高い教材をつくるようにする。方法を統一したり，学部間を調整したりする教職員を定める。

効果的な支援として，走ったタイムをグラフ化して視覚的に目標が分かるようにしたり，伴走によって走り続けられるような支援をしていく。

引き続きコンクールに参加することを動機付けに活用し，感性を引き出す指導・支援を行うよう教材研究をしたり，情報共有したりする。また，各種コンクールの時期を年間指導計画の調整を検討する。

広島県教育委員会作成リーフレット「challenge!!業務改善」を参考にして，業務改善の内容を引き続き創っていく。例えば，分掌業務の進捗管理に係る改善案を検討していきたい。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策（学校関係者評価実施後に記入する。）

学校経営計画に沿った目標設定，進捗状況及び取組については，概ね適切であるが，分析が不十分なところがある。順調な進捗は継続しつつ，「地域から信頼される学校づくりの推進」のアンケートや「児童生徒の体力・運動能力を高める教育活動」の一人一人の応じた目標の設定など，指摘された箇所を見直し，より適切な取組を進めていく。

平成 30 年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成 30 年 10 月 29 日

校番	112	学校名	広島県立呉特別支援学校	校長氏名	東内 桂子	全日制	江能分級
----	-----	-----	-------------	------	-------	-----	------

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画に基づいた目標設定がされており、適切である。 ・小学部・中学部・高等部で段階をおって、育てたい資質・能力を3つの観点に沿って、設定しているところが分かりやすくよい。 ・3年間という長期的な期間の学校経営計画に沿って目標が設定されていることも小中高一貫教育の切れ目のない学校としてよい。 ・業務改善に係る取組の件数が年間3回というのは少ない。 ・初年度であり全体的に、評価指標の設定が難しいと思われる。今後の調整を期待する。 ・児童生徒個別の育てたい資質・能力に合わせたコンクール出品大会参加でないと意味がない。年間指導計画に位置付けられるコンクールを今年度は、リサーチ、吟味していくのがよい。その上で回数や目標値を設定してほしい。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的な数値目標に沿って進捗できており、適切である。 ・毎月公共施設に出向き、地域清掃活動を実施できていることは、学校が地域と交流でき、社会に開かれた学校である証だ。 ・運動会及び公開講演会おいてのアンケートの満足度では、「満足」「やや満足」と高い評価が95%以上となっているが、アンケートを書く時間や場所が十分ではないこともあり、意見の集約としては、十分ではない。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された目標に向けて取り組まれており、適切である。 ・児童生徒の主体的な活動を目指した授業づくりが小学部中学部高等部ともにできている。児童生徒が自分の思いや考えを伝える取組や手立てを感じることができた。 ・ホームページを活用した情報発信は、地域に開かれた学校となり、他校の参考になる。 ・地域貢献の内容を清掃活動に限定せず、「地域のニーズ」としているのが特に評価できる。 ・毎月の地域清掃を実施することで、今後社会に出ていく子ども達の自信につながり、とてもよいことだと思う。 ・子ども達の指導について、指導の目標や意図を今日諸君が説明できるので保護者は安心できる。 ・授業参観の際困っていることを自分で発信でき、また、子どもたちが進んで意見を言えるような環境作りができるのが分かる。
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画に沿った分析がなされているが、適切な分析とは言い難い部分もある。 ・「地域から信頼される学校づくりの推進」について、評価の根拠として「アンケート結果」を挙げているが、必ずしも落ち着いた中で回答しているものばかりではないので、そもそも評価の信頼度が担保されているのだろうかと思った。 ・運動能力を高める活動においては、個々の能力のよって差が生じてしまうので、学部ごとに目標や活動を設定するのではなく、一人一人に応じた取組が必要だったのではないかなと思う。
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域から信頼される学校づくりの推進」及び「児童生徒の体力・運動能力を高める教育活動」においては、分析を見直して、改善方法を検討する必要がある。 ・アンケートの信頼度に関連して、「正確なデータや評価を得る工夫」が必要だと思った。 ・評価結果の分析を踏まえて今後の方策が設定されているので、学部間を超えて全校での共通理解として取り組まれていくことを期待する。 ・子どもたちの挨拶・ルール・マナーなどのソーシャルスキルを向上させていくうえで、言葉遣い、身だしなみの部分で見本となるのは、教職員なので、見られていることを自覚して指導を行ってほしい。
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・少ない教職員でありながら、達成目標の実現に向けた数々の着実な実践が行われている。 ・目標や取組の一つ一つの習いは、とてもよいと思う。新規に掲げた目標がたくさんあって、新しい江能分級を作ろうという意欲は、かなり感じる。 ・中学部高等部では、子ども達一人一人が社会生活に必要な知識・技能を身に付けるための学習が設定され、環境作りがされているのが非常によい。 ・地域の小学校では、特別支援教育に課題のある学校が多くあり、地域からの期待や要望も大きくなると思う。今後もいろいろな情報の発信、また、地域との交流を大切にし、センター的機能をもった学校として、専門性を向上させてほしい。 ・教職員の負担増にならないスクラップ・ビルドで業務改善を図ってもらいたい。先生のゆとりや元気が何より必要である。